

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

リヨコウバトは胸の①部分が赤い特徴的なハトで、時速100キロメートルで飛べたという。開けた場所だけでなく、森の中でも自由に飛べたらしい。リヨコウバトの基本的な生息地は森林だったのである。そして、一本の木に、あまりにも多くのリヨコウバトが止まったために、木が裂けて倒れることもあったらしい。

A、名前からもわかるように、リヨコウバトは毎年大移動をした。夏は北アメリカ北部の五大湖周辺で繁殖して子供を育て、冬は南部で過ごすのだが、そのときに通るルートは毎年同じではなかったらしい。リヨコウバトの巨大な群れは、その通り道にある木の実や果実をすべて食べ尽くしてしまうので、それらの植物が②回復するまで、数年間はそのルートを通らなかったのかもしれない。そして、リヨコウバトは人間の食料にもされた。栄養たっぷりで美味しくて、手軽な食料として人気があった。しかし、19世紀の前半までは、それほど大量に狩られることはなかった。その理由の一つが、この、毎年移動ルートを変えることだったようだ。他の渡り鳥と違って、決まった移動ルートがなかったため、リヨコウバトの群れがどこにいるかはわかりにくかった。

B、待ち伏せされて大量に狩られることが少なかったのだろう。しかし、電報と鉄道の発達によって、状況は変わった。電報が発達することによって、リヨコウバトの群れの位置を遠くの人にも知らせることができるようになった。そして、鉄道が発達することによって、多くの狩猟者が列車に乗って、リヨコウバトのもとへ向かったのである。

Xリヨコウバトを狩るのは簡単だったらしい。a群れにb向かって③散弾銃をc1回d撃てば、何十羽ものリヨコウバトを撃ち落とすことができた。ある記録では、1発で99羽を撃ち落としたという。撃ち落としたりリヨコウバトは、羽毛を筆取り取って樽に詰め、塩漬けにされた。そんな、リヨコウバトの樽ばかりを積んだ列車が、都会に向けてたくさん走っていたらしい。とくに脂ののった仔鳩は人気があり、ニューヨークやシカゴのレストランにおける人気メニューだったという。

そうして、19世紀後半になると、リヨコウバトは急激に数を減らしていった。人間による乱獲がおもな原因だが、森林の伐採も追い打ちをかけたらしい。そして、1910年になると、ついにリヨコウバトはたった1羽になってしまった。それは、アメリカのシンシナティ動物園で飼われていた、マーサというメスのリヨコウバトだった。そして、1914年9月1日の午後1時に、アメリカのシンシナティ動物園の職員が、床に横たわっている彼女を見つけた。それが、リヨコウバトが絶滅した瞬間だった。

あんなにたくさんいたリヨコウバトが、人間の無慈悲な乱獲により、100年ほどで絶滅してしまった。とんでもないことだ。それはまったくその通りなのだが、Y話はそこで終わらないのではないだろうか。

たしかに19世紀には、リヨコウバトがたくさんいた。しかし、空が暗くなったり樹木が裂けたりするほど多くのリヨコウバトがいる状態は、やや不自然な感じがする。バランスのとれた安定した生態系とは思えないのだ。果たしてリヨコウバトは、ずっと昔からそんなにたくさんいたのだろうか。

アメリカのイリノイ州のミシシッピ川の東に、アメリカ先住民が築いたカホキアという古代都市の遺跡がある。11〜13世紀にかけての最盛期には、面積が約16平方キロメートルに達し、モンクス・マウンドと呼ばれる高さ30メートルに達する墳丘が④そびえていたという。

このカホキアの遺跡を調査した報告によると、リヨコウバトはほとんど住民の食料になっていなかったらしい。なぜ、あんなに美味しいリヨコウバトを、アメリカ先住民はほとんど食料にしなかったのだろうか。いや、アメリカ先住民も、リヨコウバトを食料にはしていたのだろう。ただ、古代都市における食料の中で、リヨコウバトが占める割合が小さかったということだ。おそらく、その理由は、リヨコウバトがあまりいなかったからではないだろうか。かつてはリヨコウバトの個体数が少なく、群れの規模も小さかったという説は、他の考古学的証拠からも支持されているようだ。

リヨコウバトが少なかった理由は、おそらくアメリカ先住民がその個体数を抑えていたからだろう。アメリカ先住民は、リヨコウバトを食べたり、リヨコウバトのエサである植物を食べたりしていた。そのため、両者は競合関係にあり、個体数もバランスが取れて安定していたのである。

C、約500年前にヨーロッパ人がアメリカ⑤大陸にやってくると、状況は変わった。ヨーロッパ人が持ち込んだ感染症やアメリカ先住民に対する虐殺と奴隷化が、アメリカ先住民の社会を崩壊させ、人口を激減させた。その結果、アメリカ先住民とリヨコウバトのバランスが崩れて、リヨコウバトが大発生したのではないだろうか。もし、そうだとすれば、19世紀にリヨコウバトが50億羽もいたことは、異常な状態だった可能性がある。

かつて、アメリカのイエローストーン国立公園で、オオカミを駆除したためにシカが大発生して、森林が大打撃を受けたことがあった。これは生態系のバランスが崩れた例として有名だが、19世紀の北アメリカにおけるリヨコウバトの大発生も、イエローストーン国立公園におけるシカの大発生のようなものだったのかもしれない。

もしもアメリカ先住民が激滅したために、19世紀の北アメリカでリヨコウバトが大発生したのだとすれば、そのあおりを食って多くの野生の鳥類が絶滅した可能性が高い。北アメリカの自然が保持している、鳥類を養うための資源は、有限だからだ。そして、ある種が大発生している生態系は、一般には不安定で、その状態が長期間にわたって続く可能性は低い。さまざまな種が絶滅の危機に瀕するだけでなく、大発生している種自体も不安定で、個体数が激減する危機に晒されている。もちろん、それは北アメリカに限らない。地球全体で考えても、生物を養うための資源は有限なのである。

（更科功『世界一シンプルな進化論講義 生命・ヒト・生物——進化をめぐる6つの問い』による）

（注1）墳丘——土などを積み上げて作った丘のようなお墓。

（注2）イエローストーン国立公園——世界遺産となっているアメリカの自然公園。

問 1 A C にあてはまる言葉を、次のア～オから一つずつ選び、記号で答えなさい。(ただし、同じ言葉は二度使えない。)

ア しかし イ なぜなら ウ また エ そのため オ たとえば

問 2 線部①「部分」の対義語(反対の意味の言葉)として最もふさわしいものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 理想 イ 全体 ウ 一部 エ 断片 だんぺん

問 3 線部②「回復」の同義語(似た意味の言葉)として最もふさわしいものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 回転 イ 回送 ウ 復権 エ 復元

問 4 線部③「散弾銃を」が修飾しゅうしよくしている言葉として最もふさわしいものを、線部 a～dから一つ選び、記号で答えなさい。

問 5 線部④「そびえていた」のここでの意味として最もふさわしいものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア ひっそりとたっていた。
イ 高くたっていた。
ウ 小さくたっていた。
エ たくさんたっていた。

問 6 線部⑤「大陸」と同じ構成の熟語を、次のア～キから二つ選び、記号で答えなさい。

ア 尊敬 イ 頭痛 ウ 育児 エ 収支 オ 部長 カ 読書 キ 再開

問 7 線部 X「リヨコウバトを狩るのは簡単だった」とありますが、リヨコウバトの狩りについて次のようにまとめるとき、「 」に入る言葉を本文中から十四字でぬき出して答えなさい。

・リヨコウバトは「 」ために群れがどこにいいのかかわりにくかったが、電報や鉄道が発達してからはどこにいいのかかわりやすくなって狩るのが簡単になっていった。

問 8 線部 Y「話はそこで終わらないのではないだろうか」とありますが、筆者は何を伝えたいのですか。次のように説明するとき、「 」に入る言葉を、「大発生」、「不安定」という言葉を使って、三十字以内で答えなさい。

・リヨコウバトは、大量に狩られるようになる前は数が増えすぎて他の生物をおびやかしていたと考えられ、このように「 」ということは地球全体のどこでも同じことが言える。

問 9 本文の内容と合っているものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア リヨコウバトは開けた場所では飛べたが、森の中では自由に飛べずに木に止まることが多かった。
イ リヨコウバトは美味しくて人気だったが、栄養があまりないため大量に食べることは推奨すいしょうされなかった。
ウ かつてオオカミを駆除したために生態系のバランスが崩れて、森林が大打撃を受けたことがあった。
エ リヨコウバトは、1914年にアメリカの動物園で飼われていた1羽のオスが息絶えて絶滅した。

二二

 次の各問いに答えなさい。

問 1 次の 線部の漢字の読みをひらがなで書き、カタカナは漢字に直しなさい。

- | | |
|----------------|----------------|
| ① 二十年間会社に勤めた。 | ② 大雨警報が発令された。 |
| ③ 幕末の歴史について学ぶ。 | ④ 税金をオサめる。 |
| ⑤ 姿勢をカイゼンする。 | ⑥ 母親のカンビョウをする。 |

問 2 次の①～⑥の□にあてはまる漢字を、後の漢字群から一つずつ選んで答えなさい。

- | | |
|---------------|----------------|
| ① 光陰□のごとし | ② 悪銭□につかず |
| ③ □をのむ | ④ □をすえる |
| ⑤ □あるたかはつめを隠す | ⑥ にくまれっ子□にはばかる |

漢字群 腹 ・ 身 ・ 世 ・ 矢 ・ 息 ・ 能